

自己評定型の CEFR 英語運用能力 IRT 尺度を構成するための 尺度候補項目の選定および評定反応データの基礎的分析

大澤 公一 (京都大学)

自己評定型の英語運用能力 IRT 尺度を構成するため CEFR および英検 Can-do リストより 66 項目の能力記述文 (共通参照レベルおよび言語 4 技能・領域) を選定した。X 大学の平成 30 年度および 31 年度入学者を対象として共通項目デザインに基づく 2 版の尺度等化計画を作成し, 各年度の入学者集団に 2 版の冊子のうちいずれかが配当された。研究協力者は, 自身の英語運用能力の程度を 4 段階で自己評定するように求められた。各能力記述文の評定反応の基礎的集計を行い, IRT 尺度化の適否に関する検討が行われた。

キーワード: CEFR, 英語運用能力, 自己評定, 項目反応理論, アドミッション・ポリシー

1 問題・目的

2020 年度 (令和 2 年度) より導入が予定されている大学入試改革においては, 英語の運用能力評価の基準として欧州で広く用いられている Common European Framework of Reference for Languages (CEFR; Council of Europe, 2001¹⁾) を援用し, 英語 4 技能の運用能力の測定装置として英検や GTEC などの民間の英語資格認定試験を活用することが計画されていた。しかし, 民間試験の実施体制面での公平性が担保されないとの理由から, 2019 年 11 月 1 日付で計画の 4 年間の延期が決定された。

その一方で, 目的の異なる複数の民間試験の結果を統一的に評価する基準として CEFR を援用することの学術的な妥当性に関しては, 議論が不十分であると考えられる。そこで, CEFR に準拠した自己評定型の英語運用能力尺度を項目反応理論 (Item Response Theory, IRT; Lord and Novick, 1968; Lord, 1980; 芝, 1991; van der Linden, 2018 etc.) およびテスト等化 (Holland and Rubin, 1982; von Davier, 2011; Kolen and Brennan, 2014 etc.) の枠組で構成し, 英語の運用能力評価の基準として, CEFR が日本で機能するかを検討するための基礎データを作成する。大学新入生を対象としたアンケート調査を実施し, 英語運用能力の自己評定反応の基礎的集計を行う。評定反応の分布を観察し, IRT による尺度化の適否を検討する。

2 方法

2.1 尺度候補項目の選定

CEFR (Council of Europe, 2001) および英検 Can-do リスト (日本英語検定協会, 2006) より言語 4 技能・領域および共通参照レベルの計 66 項目の能力記述文 (Can-do descriptor) を選定した。共通項目デザインに基づく 2 版の尺度等化計画により, 平成 30 年度版 (H30) および令和元年度版 (R01) という 2 種類の冊子を構成した。冊子別に, 能力記述文の内容を表 2 および表 3 に示した。ここで, 表中の白黒反転 ID は H30 と R01 に共通する項目であることを示す。

2.1.1 平成 30 年度版 H30 【読む・書く】中心

以下の (1) ~ (4) に示す合計 36 項目の能力記述文を H30 の尺度項目として選定した。

- (1) CEFR の共通参照レベルで A2 から B2 までの能力記述文 9 項目
- (2) CEFR の自己評価用の能力記述文「読む」2 項目, 「書く」3 項目
- (3) CEFR の技能・領域別の能力記述文「読む: 要点把握」5 項目, 「読む: 情報検索」4 項目, 「書く: レポート記事」3 項目, 「書く: 作文」3 項目
- (4) 英検 Can-do リストから準 1 級 (B2 相当) 「読む」 「書く」各 2 項目, 2 級 (B1 相当) 「読む」1 項目, 「書く」2 項目

2.1.2 令和元年度版 R01【聞く・話す】中心

以下の (5)～(8) に示す合計 39 項目の能力記述文を R01 の尺度項目として選定した。9 項目は等化のためのアンカー項目 (R01 と H30 との間で共通する項目; 以下「共通項目²⁾」) で、新規項目は 30 項目であった。

- (5) CEFR の共通参照レベルで A1 から C2 までの能力記述文 13 項目 (うち 6 項目が共通項目)
- (6) CEFR の自己評価用の能力記述文「聞く」6 項目, 「話す: 遣り取り」3 項目, 「話す: 表現」4 項目, 「読む」1 項目 (共通項目)
- (7) CEFR の技能・領域別の能力記述文「聞く」3 項目, 「話す」1 項目, 「話す: 遣り取り」4 項目, 「読む: 検索」1 項目 (共通項目), 「書く: 作文」1 項目 (共通項目)
- (8) 英検 Can-do リストから 3 級および 4 級 (A1 相当) 「話す」各 1 項目

H30, R01 共に CEFR の能力記述文の和訳は吉島・大橋 (2004) に準拠した。ただし, 翻訳文の読み易さを考慮して著者が字句に編集や改編を適宜施した。

2.2 研究協力者・手続き

X 大学の平成 30 年度および平成 31 年度の入学者を調査の対象とした (内訳; 平成 30 年度 2,961 名, 平成 31 年度 2,948 名)。4 月に実施された新入生ガイダンスのアンケート調査の一部として, 平成 30 年度の入学者に H30 が, 平成 31 年度の入学者に R01 が配当された。項目の提示順序は一様乱数によって冊子毎に無作為に割り当てられた。研究協力者は提示された能力記述文について以下の教示に従い, 自分自身の英語運用能力の程度を 4 段階で自己評定するよう求められた。

『**英語を使って**, 以下の言語活動がどの程度「できる」と思いますか。経験のない活動については場面を想像して回答して下さい。』

1. ほとんどできない
2. あまりできない
3. ある程度できる
4. 十分にできる

3 結果

3.1 データの回収

新入生ガイダンスのアンケート調査に対する回答者のうちで, 本研究における調査項目群への回答者数は平成 30 年度が 2,398 名で, 平成 31 年度が 2,473 名であった。X 大学の全入学者に対する回収率は, 平成 30 年度が 80.99%, 平成 31 年度が 83.89% であった。

3.2 自己評定データの基礎的集計

図 1-1～図 1-7 に H30 に含まれる 36 個の能力記述文に対する評定反応カテゴリ別の反応比率 (%) を, 図 2-1～図 2-8 には R01 に含まれる 39 個の能力記述文に対する評定反応カテゴリ別の反応比率を示した。評定反応の基礎的集計結果から「十分にできる」「ある程度できる」を合わせた反応比率の順序が, CEFR (Council of Europe, 2001) における共通参照レベルの順序とは完全一致しないことが読み取れる³⁾。

4 考察

図 1-1～図 1-7 および図 2-1～図 2-8 を観察すると, 全 66 項目の能力記述文について, すべての評定段階において評定反応が観測されている。カテゴリの合併が発生しないことは, 多値型 IRT による尺度化を行うに際して都合がよい。本研究で整備された基礎データに対しては, 一般化部分得点モデル (Muraki, 1992) を適用することを基本方針とする。多値型データを取り扱う IRT モデルには段階反応モデル (Samejima, 1969) もあるが, CEFR の尺度化モデル (Rasch, 1960; Linacre, 1989) と整合性を取るため, リンク関数が divided by total 型である部分得点モデル族を採用する。ところで, CEFR の能力記述文は多様な人種や文化, 教育制度等の交互作用を背景に開発されている。そのため, 能力記述文が物理刺激ではなく精神刺激であることは明白である。しかしながら, CEFR において項目識別力を考慮しない (あるいは一定とする) ラッシュモデルによる尺度化がなされた根拠は, 明確にされていない。そのため, 今後の研究ではモデルは行動の記述のために存在するという考え方に立脚し, 能力記述文の項目識別力もパラメタとして推定対象とする。

表 1 H30・R01 共通項目におけるカテゴリ別反応比率

AID	H30	R01	CRL	1_H30	1_R01	2_H30	2_R01	3_H30	3_R01	4_H30	4_R01
1	⑩	⑩	A2	.023	.035	.109	.115	.633	.609	.235	.240
2	⑨	⑨	B1	.048	.051	.219	.221	.573	.525	.161	.203
3	⑧	⑧	A2	.045	.059	.221	.222	.628	.561	.107	.158
4	⑦	⑦	A2	.071	.070	.284	.280	.544	.537	.102	.113
5	⑥	⑥	A2	.056	.093	.340	.363	.512	.461	.093	.084
6	⑤	⑤	B1	.102	.116	.409	.433	.431	.387	.059	.065
7	④	④	B2	.195	.306	.511	.473	.264	.193	.030	.027
8	③	③	B1	.287	.287	.523	.507	.164	.175	.027	.031
9	②	②	B2	.489	.534	.369	.345	.119	.097	.023	.025

H30 および R01 に共通して配当されている 9 項目に関して、カテゴリ別反応比率を表 1 に示した。項目の掲示順序 (Anchor ID, AID) は、カテゴリ別反応比率ではなく、R01 集団における一般化部分得点モデルに基づく達成困難度の昇順で並び替えてある。共通項目に関しても、CEFR における共通参照レベル (CRL) の順序とは完全一致しないことが分かる。例えば、AID-2『非常によく使われる日常言語で書かれたテキストなら理解できる。出来事や感情、希望が書かれている私信を理解できる』の CEFR 共通参照レベルは B1 であるが、本研究における反応は他の A2 レベルの能力記述文よりも達成困難度が低いと解釈されたようである³⁾。

共通項目について、H30 と R01 の間で反応傾向に差が見られたのかどうかを見てみると、両群の間で反応比率に .100 以上の差が観測されたのは AID-7『広範な話題について、根拠を提示しつつ一定の視点に対する支持や反対の理由を挙げ、様々な選択肢の長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる』のカテゴリ 1 のみであった。その他の項目カテゴリにおいては、概ね同等の反応傾向を示している。このことから、H30 と R01 の集団の等質性がある程度推測され、等化係数の安定的な推定に寄与し得るものと考えられる。

今後は、本研究において整備された項目反応データに対して一般化部分得点モデルによる尺度化を行い、共通項目デザインに基づく IRT 項目パラメタおよび潜在特性値の等化を行うこととする。本研究において

IRT を採用する理由は、X 大学の新生を対象とした調査を経年的に行う中で項目プールを拡張する計画であること、また各年度で項目構成の異なる尺度に回答した研究協力者の年度ごとの潜在特性値の分布の直接比較を行うという等化デザインである。

IRT 尺度化に際しては、まずは共通参照レベルを軸とした 1 次元モデルの適否を検討する。H30 の α 係数 (Cronbach, 1951) および ω 係数 (McDonald, 1999) は共に 0.969 であり、R01 では共に 0.975 であった。項目間相関行列から得られた第 1 固有値と第 2 固有値の比は、7.94 (H30) および 6.21 (R01) であった。更に、項目の内的整合性の指標として item-remainder correlation の平均を H30 (.672) および R01 (.698) について求めた。以上の結果をもって、両版の項目反応データの一次元性 (一因子性) が推認された。

注

本研究の内容に関する責任は、論文の著者にすべて帰属するものである。本研究は著者による個人研究であり、その内容は著者の所属先である国立大学法人京都大学としての見解や立場とは無関係である。なお、研究計画の適否については京都大学高大接続・入試センター会議において審議を行い、研究計画の遂行方針の承認を受けた。

1) CEFR は 2018 年に companion volume (補遺版; Council of Europe, 2018) が出版されている。補遺版では共通参照レベル Pre-A1 の追加、既存の共通参照レベルの上位・下位分割 (plus level, criterion level), Mediation 機能の顕在化などをはじめ、2001 年の初版に様々な改訂や更新が加えられている。しかしながら、2019 年 9 月 1 日現在で CEFR と民間英語検定試験

との対照表 (2019 年 7 月 8 日改定版; 文部科学省, 2019) は 2001 年版の CEFR を基に作成されており, 内容的妥当性に問題があると考えられる。

- 2) 等化のための共通項目の選定においては, H30 および R01 に共通する, 特定の言語 4 技能に依らない CEFR の因子である共通参照レベルの能力記述文を中心に採用する方針をとった。また, 等化の技術的な理由から, H30 の項目反応データから推定された一般化部分得点モデルに基づく項目達成困難度の推定値の分散が大きくなるような 9 項目の共通項目群を H30 で予め構成し, R01 に挿入するという手続きをとった。
- 3) このことの理由の一つとして, 本研究における研究協力者のほとんどが日本人であるため, 日本の中等教育課程に基づく英語教育を受けていることが挙げられる。また能力記述文の内容解釈の個人差が大きく, Council of Europe が当初に想定していた操作的定義に従って本研究の協力者が能力記述文を解釈していたとは限らないことが考えられる。
- 4) 一般化部分得点モデルによって母数化される, **能力記述文の期待評定確率が「あまりできない」から「ある程度できる」に推移する能力 (英語運用能力の自己評価レベル) の閾値**をもって, 本研究以降の一連の研究における能力記述文の達成困難度を操作的に定義する。本研究では, Mixed Coefficients Multinomial Logit Model (Adams and Wu, 2007; Macaskill and Adams, 2016) の枠組で項目パラメタを推定した。数値計算は Bock-Aitkin EM アルゴリズム (Bock and Aitkin, 1981) による周辺最尤推定法で行われた。パラメタの推定には ConQuest 4.14.2 (Wu et al., 2017) を用いた。

謝辞

本研究の遂行にあたっては, 京都大学教育推進・学生支援部入試企画課および国際高等教育院の協力を得てアンケート調査を実施した。京都大学高大接続・入試センター (入試開発室) 特定専門業務職員の松浦かな氏には, 紙媒体でのアンケート回答データの整理・電子化, 図 1-1 ~ 図 1-7 および図 2-1 ~ 図 2-8 の作成補助を依頼した。

参考文献

- Adams, R.J. & Wu, M.L. (2007). The mixed-coefficient multinomial logit model: A generalized form of the Rasch model, In von Davier, M. & Carstensen, C.H. (Eds.), *Multivariate and mixture distribution Rasch models: Extensions and applications*, pp.57-76, Springer Verlag.
- Bock, R.D. & Aitkin, M. (1981). Marginal maximum likelihood estimation of item parameters: Application of an EM algorithm, *Psychometrika*, **46**, pp.443-459.
- Council of Europe (2001). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*, Cambridge University Press.
- Council of Europe (2018). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment. Companion volume with new descriptors*, Council of Europe.
- Cronbach, L.J. (1951). Coefficient alpha and the internal structure of tests, *Psychometrika*, **16**, pp.297-334.
- Holland, P.W. & Rubin, D.B. (Eds.). (1982). *Test Equating*, NY: New York, Academic Press.
- Kolen, M.J. & Brennan, R.L. (2014). *Test Equating, Scaling, and Linking: Methods and Practices*, Springer, 3rd ed.
- Linacre, J.M. (1989). *Many-Facet Rasch Measurement*. Chicago: MESA press.
- Lord, F.M. & Novick, M. (1968). *Statistical theories of mental test scores*, Reading, MA: Addison-Wesley.
- Lord, F.M. (1980). *Applications of item response theory to practical testing problems*, Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- Macaskill, G. & Adams, R. (2016). *Score Estimation and Generalised Partial Credit Models*, Notes 8, 14 June 2016.
- McDonald, R.P. (1999). *Test Theory: A unified treatment*, Psychology Press.
- 文部科学省. 大学入試英語成績提供システム参加予定の資格・検定試験と CEFR との対照表, 2019, <http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/_icsFiles/fieldfile/2019/07/09/1418843_004_1.pdf>, 2019 年 9 月 1 日確認.
- Muraki, E. (1992). A Generalized Partial Credit Model: Application of an EM Algorithm, *Applied Psychological Measurement*, **16**(2), pp.159-176.
- 日本英語検定協会. 英検 Can-do リスト, 2006, <<http://www.eiken.or.jp/eiken/exam/cando/list.html>>, 2019 年 5 月 1 日確認.
- Rasch, G. (1960). Probabilistic model for some intelligence and achievement tests, *Danish Institute for Educational Research*.
- Samejima, F. (1969). Estimation of ability using a response pattern of graded scores. *Psychometrika Monograph*, No.17.
- 芝祐順 (編) (1991). 『項目反応理論-基礎と応用』 東京大学出版会.
- van der Linden, W.J. (Eds.). (2018). *Handbook of Item Response Theory*, Three Volume Set, Chapman & Hall/CRC.
- von Davier, A.A. (Eds.). (2011). *Statistical Models for Test Equating, Scaling, and Linking*, Springer.
- Wu, M.L., Adams, R.J., Wilson, M.R., & Haldane, S. (2017). *ACER ConQuest Version 4.14.2*, ACER Press.
- 吉島茂, 大橋理枝 (訳) (2004). 『外国語教育 II 外国語の学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠』 朝日出版社.

表 2 尺度 H30 の能力記述文 (Can-do descriptor)

ID	CRL	Skill	Sub Skill	Can-do descriptor
①	B2	共通	-	お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい言葉が流暢かつ自然である。
②	B1	共通	-	英語圏での旅行中に起こりそうな大抵の事態に対処できる。
③	B2	書く	自己評価	興味関心のある分野なら、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明文が書ける。
④	B2	読む	情報検索	幅広い専門的な話題の情報や記事、レポートの内容の重要性をすぐに見抜き、精読の価値があるか判断できる。
⑤	B2	書く	レポート	論拠や論点を整然と展開してエッセイやレポートが書ける。重要・補足事項の詳細を適切に強調できる。
⑥	B2	読む	要点把握	自分の専門分野の非常に専門的な資料から、情報や思考、意見を読み取れる。
⑦	B2	読む	英検準 1	英字新聞 (The Japan Times/The New York Times 等) の社会記事が理解できる。
⑧	B2	共通	-	広範な話題について、根拠を提示しつつ一定の視点に対する支持や反対の理由を挙げ、様々な選択肢の長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
⑨	B2	共通	-	自分の専門分野の技術的な議論を含め、具体的・抽象的な話題の複雑なテキストの主要な内容が理解できる。
⑩	B2	読む	情報検索	長く複雑なテキストにざっと目を通すだけで、重要事項を見定めることができる。
⑪	B2	書く	レポート	様々な所から集めた情報や議論をまとめる (要約する) ことができる。
⑫	B2	書く	自己評価	出来事や体験に関する自分にとっての意義を手紙で書ける。
⑬	B1	書く	レポート	日常的な事実を述べ、行動の理由を説明するために、ごく短い報告文を標準的な書式に従って書ける。
⑭	B1	書く	英検 2	ホームステイ先や友達への近況報告など、ある程度の長さの手紙が書ける。
⑮	A2	書く	作文	身近の様々な日々の事柄 (人物、場所、学習体験など) について、繋がりのある文が書ける。
⑯	B2	読む	英検準 1	英文を、種類や読む目的に応じて適切に読みこなせる (例; 新聞/さっと、評論文/注意深く、小説/楽しみながら)。
⑰	B1	書く	英検 2	自分が読んだ本や見た映画について、自分の感想が書ける。
⑱	B1	共通	-	自分の経験や出来事、夢や希望などを説明し、意見や計画の理由・説明を短く述べるができる。
⑲	B2	読む	要点把握	専門用語の意味を確認するために辞書を使えば、自分の専門外の分野でも専門的な記事が理解できる。
⑳	B1	読む	情報検索	長いテキストにざっと目を通し、課題遂行のために必要な情報を収集できる。
㉑	B1	読む	要点把握	必ずしも詳細ではなくても、提示された問題への対応に関する議論の筋道が理解できる。
㉒	A2	共通	-	自分の背景や身近の状況、直接的な必要性のある事柄について、簡単な言葉で説明ができる。
㉓	B2	書く	英検準 1	日常生活の身近な話題について、自分の考えや意見を書ける (「食事と健康」など)。
㉔	B2	読む	自己評価	筆者の姿勢や立場、視点に基づいた現代の問題に関する記事やレポートが読める。
㉕	A2	読む	要点把握	手紙や広告、短い新聞記事のような、簡潔なテキストの中から特定の必要な情報を取り出せる。
㉖	A2	共通	-	簡単かつ身近で日常的な事柄について、情報交換に応じることができる。
㉗	B1	共通	-	学校やプライベートで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば要点を理解できる。
㉘	A2	書く	作文	自分の家族や生活環境、学歴について、簡単な句や文を連ねて書ける。
㉙	A2	共通	-	ごく基本的な個人・家族情報、居住地域、買い物など、直接関係がある領域での、よく使われる文章や表現が理解できる。
㉚	B1	読む	要点把握	主張の明確な論説文について、主要な結論を把握できる。
㉛	B1	読む	英検 2	日本語の注や説明付きの英字新聞 (The Japan Times ST/Asahi Weekly 等) で、興味関心のある記事が理解できる。
㉜	B2	書く	英検準 1	日本文化を紹介する簡単な文章を書ける (食べ物、祝日、お祭りなど)。
㉝	A2	書く	自己評価	直接的に必要な事柄なら、短いメモや手紙、メッセージが簡単に書ける。
㉞	A2	書く	作文	出来事や過去の活動、個人的な経験を短い文で書ける。
㉟	B1	読む	自己評価	非常によく使われる日常言語で書かれたテキストなら理解できる。出来事や感情、希望が書かれている私信を理解できる。
㊱	A2	読む	情報検索	公共の場所 (道路、レストラン、鉄道の駅など) で看板や説明、指示、警告などの内容が理解できる。

注 1) 表 2・表 3 のゴシック体で記述された延べ 22 項目は、4 技能横断的な CEFR 共通参照レベルの能力記述文である。

注 2) 表 2・表 3 の白黒反転 ID 番号は、尺度 H30 および R01 の共通項目であることを示している。

注 3) 表 2・表 3 の項目 ID の並び順は、一般化部分得点モデルに基づく項目達成困難度の降順である⁴⁾。

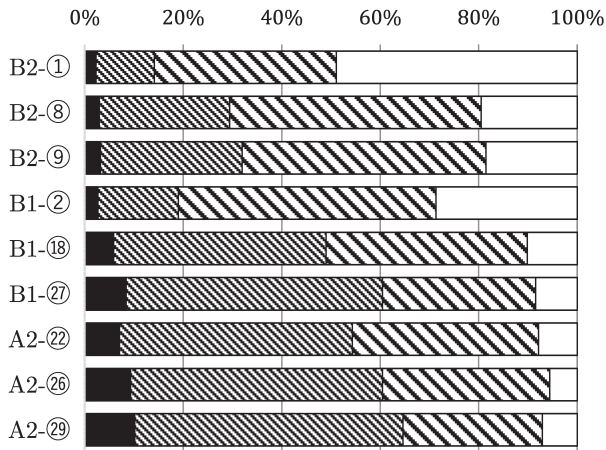


図 1-1 共通参照レベル (4 技能)

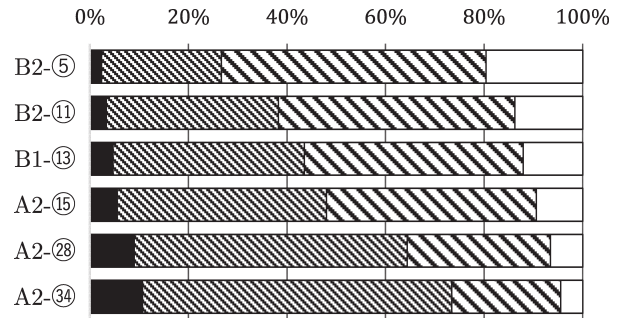


図 1-5 書く; レポート・記事・作文

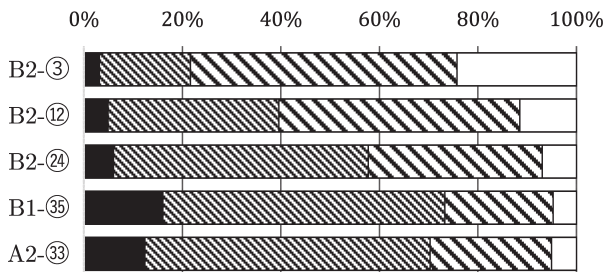


図 1-2 自己評価 (読む, 書く)

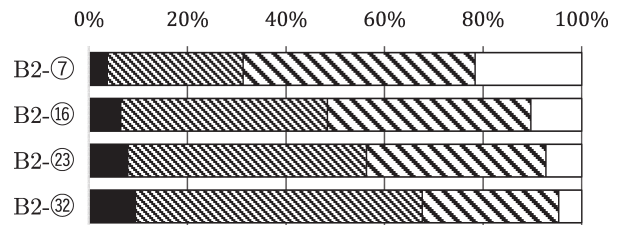


図 1-6 英検準 1 級; 読む, 書く (B2 相当)

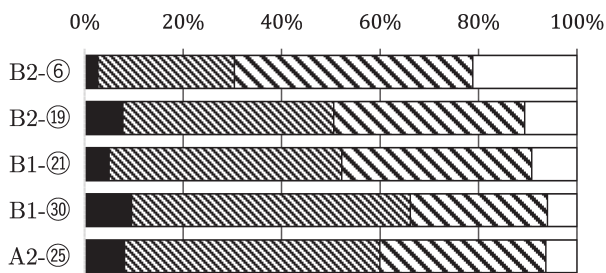


図 1-3 読む; 要点把握

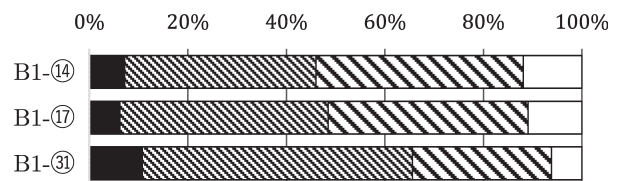


図 1-7 英検 2 級; 読む, 書く (B1 相当)

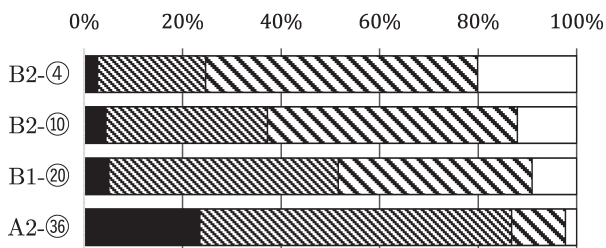


図 1-4 読む; 情報検索

- 凡例:
- 4. 十分にできる
 - ▨ 3. ある程度できる
 - ▩ 2. あまりできない
 - 1. ほとんどできない

表 3 尺度 R01 の能力記述文 (Can-do descriptor)

ID	CRL	Skill	Sub Skill	Can-do descriptor
①	C2	共通	-	自然に、流暢かつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違いや区別を表現できる。
②	B2	共通	-	お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい言葉が流暢かつ自然である。
③	C1	共通	-	言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。
④	B1	共通	-	英語圏での旅行中に起こりそうな大抵の事態に対処できる。
⑤	B2	聞く	自己評価	大抵のテレビのニュースや時事問題の番組が分かる。標準語の映画なら大多数は理解できる。
⑥	B2	共通	-	広範な話題について、根拠を提示しつつ一定の視点に対する支持や反対の理由を挙げ、様々な選択肢の長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
⑦	C2	共通	-	聞いたり、読んだりしたほぼ全てのものを容易に理解できる。
⑧	B2	聞く	自己評価	長い会話や講義を理解できる。話題がある程度身近な範囲であれば、議論の流れが複雑でも理解できる。
⑨	B1	話す	表現・自評	物語を語ったり、本や映画のあらすじを話し、それに対する感想や考えを口頭で表現できる。
⑩	C1	共通	-	色々な種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解でき、含意を把握できる。
⑪	A2	話す	遣り取り	提案を行ったり、出された提案に対して口頭で反応できる。
⑫	B1	話す	遣取・自評	家族や趣味、旅行、最近の出来事など、日常生活に直接関係のある事や個人的な関心事について準備なしで会話に入ることができる。
⑬	B1	聞く	-	話が標準的で、発音もはっきりとしていれば、自分の周りでの長い議論の要点を普通に理解できる。
⑭	B1	共通	-	自分の経験や出来事、夢や希望などを説明し、意見や計画の理由・説明を短く述べることができる。
⑮	B1	話す	-	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語る事ができる。
⑯	A2	話す	表現・自評	家族や周囲の人々、居住条件、学歴などを簡単な言葉で一連の語句や文を使って口頭で説明できる。
⑰	B1	話す	表現・自評	意見や計画に対する理由や説明を簡潔に口頭で示せる。
⑱	A1	共通	-	自分や他人の紹介ができ、住んでいる場所、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について質疑応答できる。
⑲	A2	話す	遣り取り	口頭で他の人の意見に賛成や反対ができる。
⑳	A1	共通	-	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常表現や基本的な言い回しは理解し、使用できる。
㉑	A2	共通	-	簡単かつ身近で日常的な事柄について、情報交換に応じることができる。
㉒	B1	聞く	自己評価	話し方が比較的ゆっくり、はっきりとしているなら、時事問題や個人的な話題について、ラジオやテレビ番組の要点を理解できる。
㉓	B1	聞く	自己評価	学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解できる。
㉔	A2	聞く	-	徒歩や公共交通機関を使って X から Y までどう行くのかという簡単な説明が理解できる。
㉕	A1	話す	表現・自評	どこに住んでいるかや、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って口頭で表現できる。
㉖	A2	聞く	-	ゆっくりと、はっきりとした議論なら、自分の周りで議論されている話題はおおた分かる。
㉗	A2	話す	遣取・自評	通常は会話を続けていくだけの理解力はないのだが、短い社交的なやり取りはできる。
㉘	A2	共通	-	ごく基本的な個人・家族情報、居住地域、買い物など、直接関係がある領域での、よく使われる文章や表現が理解できる。
㉙	A1	話す	遣取・自評	直接必要なことや、ごく身近な話題についての簡単な質問なら、聞いたり答えたりできる。
㉚	A2	書く	作文	出来事や過去の活動、個人的な経験を短い文で書ける。
㉛	B1	読む	自己評価	非常によく使われる日常言語で書かれたテキストなら理解できる。出来事や感情、希望が書かれている私信を理解できる。
㉜	A2	話す	遣り取り	簡単な言葉を使い、自分の感情や感謝の気持ちを口頭で表現できる。
㉝	A1	話す	英検 3	(動物、食べ物、スポーツなど) 物事の「好き」「嫌い」とその理由を簡単に話せる。
㉞	A2	聞く	自己評価	短い、はっきりとした簡単なメッセージやアナウンスの要点を聞き取れる。
㉟	A2	話す	遣り取り	欲しいものを言い、値段を聞いて簡単な買い物ができる。
㊱	A1	共通	-	相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りができる。
㊲	A1	聞く	自己評価	はっきりとゆっくりと話してもらえれば、自分や家族、すぐ周りの具体的なものに関する聞きなれた語句や、ごく基本的な表現を聞き取れる。
㊳	A2	読む	検索	公共の場所(道路、レストラン、鉄道の駅など)で看板や説明、指示、警告などの内容が理解できる。
㊴	A1	話す	英検 4	窓を開けてもらうなど、簡単な頼みごとができる。

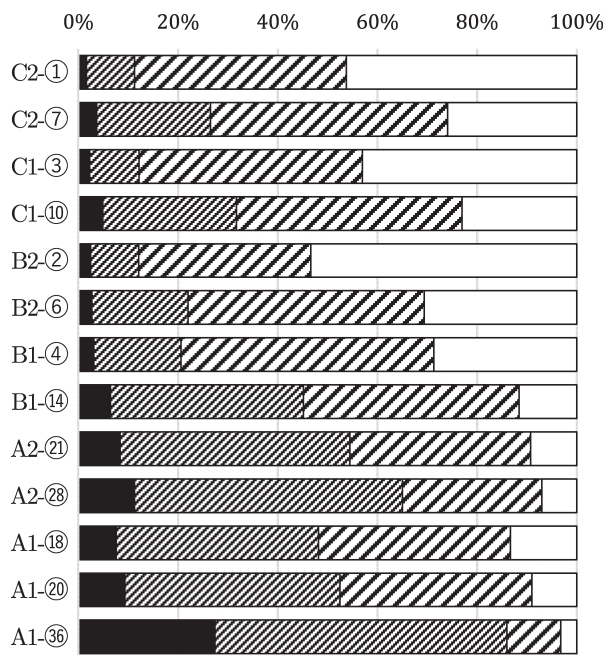


図 2-1 共通参照レベル (4 技能, 共通項目 6 項目)

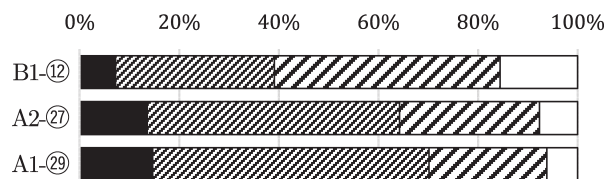


図 2-5 自己評価 (話す; 遣り取り)

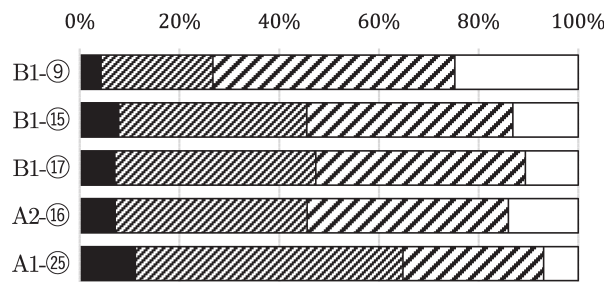


図 2-6 自己評価 (話す; 表現)

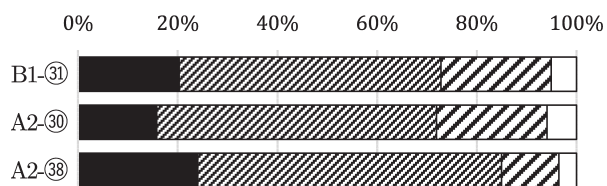


図 2-2 読む, 書く (共通項目)

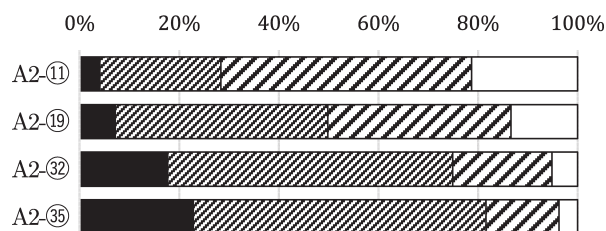


図 2-7 話す; 遣り取り

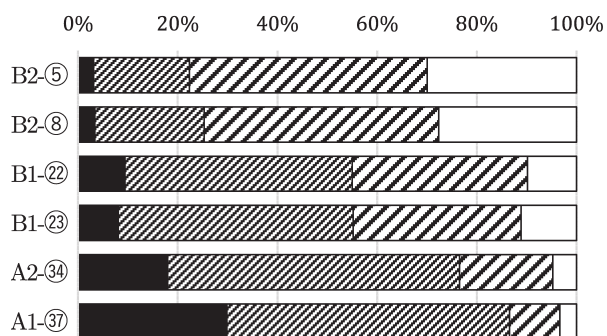


図 2-3 自己評価 (聞く)

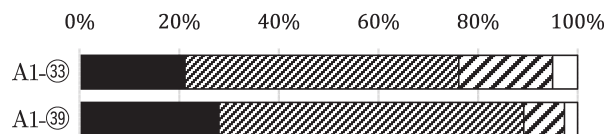


図 2-8 話す; 英検 3 級・4 級 (A1 相当)

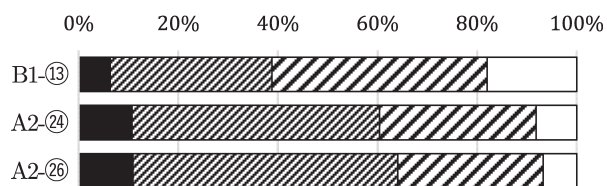


図 2-4 聞く

- 凡例:
- 4. 十分にできる
 - ▨ 3. ある程度できる
 - ▩ 2. あまりできない
 - 1. ほとんどできない